

2019 年度 外部アドバイザー委員会

実施日：2019 年 12 月 14 日（土）

時間：14：00-16：00

会場：日本大学文理学部 8 号館レクチャーホール

出席者：磯崎、加藤、金澤、五関、佐々木、中村、藤井（敬称略）
高橋、中山、安井、竹内

外部アドバイザー委員（敬称略）

磯崎 行雄	東京大学大学院総合文化研究科
加藤 碩一	国立研究開発法人産業技術総合研究所
金澤 直人	中央開発株式会社
黒沢 大陸	朝日新聞大阪本社
五関 利幸	株式会社パスコ
佐々木 和彦	応用地質株式会社
佐藤 尚弘	明治コンサルタント株式会社
瀬戸島 政博	公益社団法人 日本測量協会
田中 明子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
千葉 達朗	アジア航測株式会社
中田 節也	防災科学研究所火山研究推進センター
中村 裕昭	株式会社 地域環境研究所
平田 大二	神奈川県立生命の星・地球科学博物館
藤井 敏嗣	NPO 法人環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所
吉田 健次	八千代エンジニアリング株式会社

地球科学科

安井 真也	教授	学科主任/JABEE 委員長
竹内 真司	教授	幹事長
高橋 正樹	教授	
中山 裕則	教授	
金丸 龍夫	准教授	
太田 真木	事務局	

議事内容

1. 主任挨拶
2. 大学と学部学科の現状について
3. JABEE の内外の動向
4. 就職状況と JABEE
5. 自由討議

冒頭に高橋先生からご挨拶があった。

文科省が大学に介入してきた。

卒業要件の強化がきたら、私立大学はいきのこっていけるのか

本学では、教員人件費の削減きて、一人当たりの人数が多くなっている

新カリキュラムが施行されるので、非常勤も減らされる

地球科学科としてユニークな存在だったが、今後も持続していくには、社会との連携も

応用理学的な視点で、外からの風を吹かせていきたいが、非常勤も減らされる現状で、

どうしたらよいか

新体制も強靱とはいえないが、よろしく願いたい（高橋）

議事内容

1. 主任挨拶
2. 大学と学部学科の現状について
3. JABEE の内外の動向
4. 就職状況と JABEE
5. 自由討議

1. 主任挨拶

安井主任から開会の挨拶があった。

2. 学科の現状

資料に基づいて、主任から学部、学科の現状について説明があった。

オープンキャンパス昨年度 1.5 倍の来場者

入試方法

退学率の高さ

海外研修の申し込みの減少——7 回目か 8 回目だが、最低申し込み

他学科、学部の研修も中止

就学支援——発達障害に対応する

留学生——受け入れ増加、在籍管理が厳しくなる、入国管理局が厳しく管理し始めた

少子高齢化の中で、技術者教育はどうしたらよいか

学力の国際化——学力の 3 要素——入試システム改革

日大の DP、CP

受験産業が活発化——大学がカテゴリ化していくのではないか

在籍者数

退学者の内訳

コマ数 2 割削減となると JABEE の科目は担保できているのか

→だんだん教育ができなくなるのは、だれが見ても明らかだ

3. JABEE の動向

気象予報士など合格の報告

3つのポリシーについて説明があった。

日大憲章—学部のポリシーがあり、学科のポリシーがある。

新カリキュラムの紹介

→学科の DP—JABEE の DP が新カリでは別物になっている

→JABEE のやり方に大学が追い付いてきたので、JABEE が必要であるか

非常勤がもつ科目について、

→学生は選択の余地が少なくなるが、負担は変わらない

→実験実習科目が少なくなるが、どう考えるか

→研究室によって事情は異なるが、3年次に4年次に使う実験器具に慣れておくことが重要では

→それは専門を決めてからのことではないか

→基礎実験1, 2などもあるが、コマ数、人的なことから80名の学生に細かい実験を経験させるのは、難しいのでは？

卒業テーマ研究、演習の違いについて

→実態に合わせた

→日曜日などに巡検をするのは可能なのか、

→若手のOBなどがやる実習などに参加させればよいのでは

→ボーリングのコアを見る技術についての講習なども利用すればよいのでは

→外注して実験、実習を利用したらどうか

→時間外での利用、講師として呼んで謝金で

→産学コーディネーター

→地質標本館

→直接

→インターンシップで単位はだせないだろうか

→ボランティアで単位認定はできないのか

学科内の JABEE プログラム選択者数の変遷

次期継続審査について

C がついた科目について改善点を説明

→シラバスについては、学部でチェックがされるようになった。

これから 2019 年度基準について、資料を準備する予定である

継続的な改善について

教員の構成

再雇用、特任の違い

65歳で定年になって特任になり、毎年更新手続きが必要

就職状況について

- ・ JABEE 選択者の変遷について

→ 一研究室で JABEE 人数は決まっているので、選択アルゴリズムの中で、研究室を優先させる場合がある

→ 気象研究室が人気がある

- ・ 人事なので、インターンシップは企業では消極的。企業活動の流れの中では厳しい。

OneDay インターンシップのほうが適当。実験実習には時間をとってほしい。

現場になかなか出せないのも、基礎的な教育はしてほしい。JABEE をもって入社した学生がその後どのような進路をとるのがよいのか

→ 卒業後の JABEE の人の動向が分からない。配属さえ知らない

- ・ 人事に聞いてくれば

- ・ JABEE 平均 32 歳で合格、一般では 44 歳 合格率は変わらないので修了生のメリットは大きい

その辺の情報を整理して、オープンデータにしてパンフレットに乗せられたらよいだろう

30000 円も上がる、昇進の要件にもなっている

士補をとってからのので、かなりのアドバンテージだ

地質資源の分野では、オフィシャルデータとして公表できるようプッシュしてみる

- ・ 防災関係では自治体でどこが危ないかをみるのは、今までは土木だったが、今は福祉

がパトロールをする必要があり、福祉の関係の方への防災教育が必要になってきた。

防災は特別な知識ではなく、文理関係なく必要なことであると感じている。

- ・ フィールドワークを学生に期待するなど高橋先生に言われたが、企業としては基礎知識

として地質図をかけたほうがよい。出張が嫌だと言って入社 3 年目で、この卒業生がやめた。悲しかった。

- ・ 教員採用が少ない

- ・ 審査、2018 年が抜けているので、周知しているなど、今から整理して乗り切ってください

ください

- ・ ジオパーク職員が正規の職員としての採用がちらほら出てきた。就職先にぜひ選んでほしい。

- ・ 火山行政職が山梨県だけだが、全国に拡充したいという知事の野望
火山防災の講習を展開しているので、講師がほしいというところがある
どこまで頑張れるかわからないが、ぜひ地学の教育はやってほしい
顕微鏡見られなくても、画像処理技術が上がっているのでこちらでいくらかカバーできる
花崗岩と玄武岩の違いくらい教えて欲しい

- ・ 地質学を学ぶことをだれがどう教えるか、問題
 - ・ リテラシーとして一番学ぶべきなのは、地学であると思う
 - ・ 地学を学ぶ意義を教えてください
- 国土科学リテラシーとして初等教育として必修にすべき
- ・ 国土地理院が3. 1 1以降やろうとしたが、できなかった
 - ・ 日大の存在意義があるんじゃないか
 - ・ NHK の地学もひどい
 - ・ 今はブラタモリしかない

以上